

音楽とお話の魔法

大河内会津子

こんな子どもたちがいるなんて!?

「なんて静かなの!？」私が初めて音楽サロンを見学した時の感想です。

お母さんと子どもがとても静かに集中して、それでいて楽しく歌を歌ったりお話を聞いている姿を見て、本当に驚きました。

子どもと関わる仕事をしていない人が見ても、子育てを経験したことがない人が見ても、また、この場にいる子育て中のお母さんさえも、それは「あたりまえ」のことに見えていたかもしれません。

しかし、私立保育園に9年間勤めた経験では、この音楽サロンに集まっていた1~2歳児が、40分もの長い間、静かに座って音楽を聴く...、それは、信じられないことでした。

きつねにつままれたような...? 私の専門のお話的に言えば、「何かの魔法にかかったような?」そんな子どもたちでした。

保育士の常識がひっくり返った

「あなたがいた園の指導がなくなってなかったんじゃない?」と思われるかもしれませんが、でも、私が勤めていた保育園は、手遊びもお話も、たっぷりする園でしたし、このような感想を持ったのは私だけではないのです。

静かな園のイメージがあるモンテッソーリに勤めていたピアノや歌が得意な保育士も、ベテラン保育士が、口を揃えて、「赤ちゃんが、1歳、2歳児が、こんなに音楽を聴くの?」と驚いていました。保育士の常識では考えられない出来事でした。

いちばん楽しみな場所

保育士は、お母さんが一緒にいなくても赤ちゃんが安心して過ごしやすいよう環境を整えています。落ち着いた環境をと心がけてきた保育士ですら、HappyMotherMusicに集まってくるお子さんには驚くのです。2~3歳にもなると「こんにちはー!」と喜びいっぱいに来てくれる子どもたち。月1回の会を、「今日は、音楽の会?と、出かけるたびに聞かれるんですよ」というお母さんもひとりやふたりではないくらい、みんなが心待ちに来てくれています。それはどうしてなのでしょう?

子どもの目線になって、
子どもの何かをしようとする姿を待つ
子どもの気持ちを十分受け止めてあげる
子どもをたくさんほめてあげる
子どもと笑顔で接する
子どもの話を聴く

お母さんを補完する温かさ

残念ながら、現代社会では、さまざまな要因から、お母さんの心に、柔らかさが失われがちです。別掲のような目線を心がけ、お母さんの気持ちに寄り添いつつ、子どもの個性が真っ直ぐに育つのを待っています。お母さんが気づきにくい、子どもの育ちを見逃さないのが私たち保育士の役割です。

音を楽しみ、笑顔で過ごせる場所でありたい

私が思う『HappyMotherMusic』はその場だけの楽しい時間を提供するのではなく、お母さんとお子さんの少し深い部分をそれぞれの立場から見守っている場所。その見守られた環境の中で、「音楽」という字の通り、音(音楽・言葉)を楽しむ場所として、私達もそしてなによりも、子ども達、子育てをしている全ての人が『笑顔』で過ごせる場所でありたいと日々模索しています。
(2008年3月)